

泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社
0724(83)4653

ついで
闘魂

会長 辻健三

あーりこのような言葉を今日では聞かれなくなつた。それはそうである。新聞にこのようないふ事を書かれていた。或学政では「アイト、アイト」と言う言葉を使わせない。「アイト」とは「戦意」闘志である。だから駄目である。成程なあと考えた。しかし、私は「戦う」アイトである。それは自分自身との戦いである。五月三日、連休日、その日は走ろう会、オア例会日でもあった。連休のこととて私にも「ハイネ子」「魚釣」「わらび餅」「登山」と色々誘ひがあった。さすがに「ゴルフ」はなかったが、私はそれらを皆断つた。自分は例会日に出ねばならぬ。休むわけにはいかない。さて当日午前九時に新家公民館に行く。誰もおきない。九時半になった。誰も来ない。それはそうである。連休日だ。皆んなそれぞれ都合があるのである。さて、自分はどうするか。家に引き返してテレビでも見ようか。今となってはもう何処へも行けない。登山の連中は青一日より「連休だ」登山だと言つて立山方面に行つてしまつていふ。そこで、闘魂、自分自身とである。走りに行

こう。折角の休みだ。今日は長く走ろう。大鳴山に行こう。そこで考えた。自分は何故走るのか。「走ろう会」の会長であるからか。それとも、「健康のためか」「何処かの大会に出るためか」「記録への挑戦か」「わらわらない。九時四十五分、スタートする。新家上之郷の池としてゴルフ場のかかりに着く。苦しい。このところ仕事の都合上、トレーニングをしていない。えらいものだ。毎日の種々重荷がないと、かくも苦しいものかと思つた。ゴルフ場を通過することになる。すると何を思つたか、キャプテンさんか。待て、ゴルフのプレイヤーを止め、私の通過を優先する。それならば、私はいつでも早く通過せねばならない。皆さん、存じの最後の坂道である。苦しい。泣けそうである。給水所のところまで登りきる。ゴルフの人達も思ったであろう。あの阿保は可成走ろうか。今やりのジョギングか。やめとけはいいのに、金かなければゴルフも出来ないのだからと。そうかも知れない。金がないとゴルフも出来ない。またまた、今日はゴルフの客が一杯だ。私は思った。「円高だ」と言つて、金もないのによろづろする。やめとけはいいのに、それよりも走つた方がいふ。そうか。余程健康に良いのだと。しかし、こんなところで下手な走りや駄目だ。かっこ悪い。辛抱。苦しくとも走り続ける。やつとゴルフ場を通過した。大鳴山への本道に出た。あとはいもう、ゆくりしたものである。新緑を眺めながら走る。「何故走るか」。そこに道があるから。思えば、この道、以前は

何人かこの道を走つたことがある。もうあのよな事が無い。走ろう会、会員一人減り二人減り。今日、大鳴山へは私一人だ。仕方がない。「熱し易く、冷め易い」日本人の常だ。ランニング、ジョギングも一時の流行りであつたのだらうかと思ふ。大鳴山のバス停に着く。何時もよりタイムが悪い。一時間四十五分もかかっている。五分間休けい、引返すとする。三百円持て来て、ジュースをのむ。大工に来る。又、ジュースをのむ。日根野に来た。はうがへた。牛乳をのむ。七十円である。三河の釣が出た。家に電話する。今日、日根野農協前を走つて、すぐ家に帰る。心配するな、それにしても、はうがへた。徹れそうだ。すると、「早く帰るおいで。栗野原さんから電話があった。公民館に行つたが誰もおかない」と言つた。全然心配などしていない。時計はもう十二時を早く過ぎ、こううけ腹へこみ悪戦苦闘中だ。「アイト、アイト、アイト、金二十円では、電車にもバスにも乗れない。走るしか任事がない。公民館に着く。一時三十分であった。帰りも一時間四十五分かかっている。自分は満足している。今日は出来しかつた。これを闘魂である。これか。私か。私か。私か。如何が。走りませんか？

おらせ
一、例会日五月七日(日)午前九時新家公民館集合
当日は雨となり天気予報ですが、雨決行です。
二、コース、風景新緑を尋ねて「六ヶ谷墓」谷コースを走り
三、コース、風景新緑を尋ねて「六ヶ谷墓」谷コースを走り
入札のサブスクリプションが必要ですか。その用意して下さ